

「公共事業コスト縮減行動計画 2010」

フォローアップ調査 (H30(2018)) の結果について

1 目的と背景

栃木県では、平成 22(2010)年7月に策定した「公共事業コスト縮減行動計画 2010」に基づき、全庁あげてコスト縮減に取り組みました。

長年のコスト縮減の取り組みにより、各担当者にコスト意識が定着しており、今後の事業推進にあたって、継続して高いコスト意識を維持するために、フォローアップ調査を実施しています。

2 「公共事業コスト縮減行動計画 2010」のポイント

- (1) 期 間：平成 22(2010)～26(2014)年度（5年間）
- (2) 縮減目標：次の5分野を対象に、前行動計画（2005）で達成した15%以上のコスト縮減を5年間維持することができました（平成 16 年度の標準的な工事方法や資材を基準として）。
- (3) 5分野の主な内容
 - ① 工事コストの低減 ⇒ 計画・設計の見直しや新技術の採用による低減
 - ② 時間的コストの低減 ⇒ 効率的に工事を実施し整備効果の早期発現
 - ③ ライフサイクルコストの低減 ⇒ 耐久性を向上させ維持管理コストを低減
 - ④ 環境社会におけるコストの低減 ⇒ 現場発生材の再利用や環境への負荷低減
 - ⑤ 効率性向上による長期的コストの低減 ⇒ 工事関係手続きの電子化による低減

3 フォローアップ調査における主な取組事例

①工事コストの低減

【県土整備部】 防草対策としての二次製品コンクリートパネルの採用

道路盛土の防草対策として、防草コンクリートを現場打ち施工するところ、二次製品のコンクリートパネルを採用することで、施工性の向上によるコストの縮減を図りました。



(施工中)



(施工後)

鹿沼市 (国) 121号

【県土整備部】 橋梁架替工事における上下線分割施工方式の採用

上下線を分割し架け替えを行う施工方式を採用し、1期施工では旧橋を存置し仮橋として活用することで、仮橋の設置費用、切り廻しに伴う近接家屋の移転を不要とし、コストの縮減を図りました。



(施工中 (1期施工))



(施工後)

足利市・佐野市 (主) 桐生岩舟線 白旗橋

【農政部】 圃場整備基盤造成における建設発生土の活用

基盤造成に係る整地工にあたり、盛土材料として県土整備部発注工事の建設発生土(河川掘削土)を流用することで、発生土の運搬、処分に係るコストの縮減を図りました。



(施工中)



(施工後)

足利市・佐野市 (主) 桐生岩舟線 白旗橋

【環境森林部】 落石予防工事における小規模落石防護柵の採用

落石予防工事において新技術である小規模落石防護柵を採用することで、掘削や伐採を最小限とすることで、工事コストの縮減を図りました。



(施工中)



(施工後)

茂木町日向地内 神井工区

② 時間的コストの低減

【県土整備部】 空調整備工事における空き教室の活用による施工効率改善

複数あった空き教室を活用し施工進捗に合わせて、教室の移転を行うことで、集中的な設置工事が可能となり、資機材管理の効率化及び時間的コストの削減を図りました。



(施工中)



(施工後)

栃木農業高校

③ ライフサイクルコストの低減

【県土整備部】 路上再生工法による舗装修繕工事

舗装修繕工事に路上再生工法を採用することにより、再舗装のサイクルを延長し、ライフサイクルコストの低減を図りました。



(施工中)



(施工後)

足利市 (一) 佐野太田線

【県土整備部】 長寿命化を目的とした塗装工法の採用

橋梁の塗装塗替え工事において、錆転換型防食塗装技術を活用することで、長期防食性による再塗装のサイクルを延長し、ライフサイクルコストの低減を図りました。



(施工中)



(施工後)

日光市 (国) 120号 金精平一の橋

【県土整備部】 排水性舗装における高耐久型アスファルト合材の採用

排水性舗装において、ねじれ抵抗性に優れた高耐久型のアスファルト合材を用いることで再舗装のサイクルを延長し、ライフサイクルコストの低減を図りました。



(施工前)

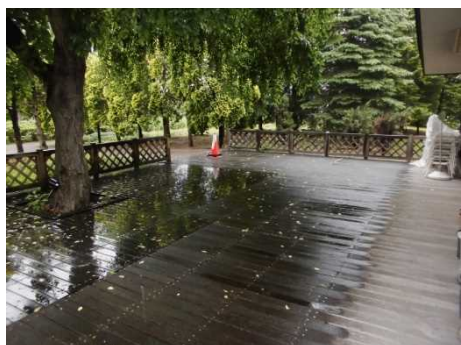


(施工後)

真岡市 (主) 宇都宮真岡線

【県土整備部】 ウッドデッキ材料としてコンクリート平板の採用

腐食が著しく維持管理の難しいウッドデッキを、耐久性が高く維持管理が容易なコンクリート平板のデッキに更新することで、ライフサイクルコストの低減を図りました。



(施工前)



(施工後)

佐野市 みかも山公園

【企業局】 照明器具のLED化

管理事務所等の照明設備をLED化することで、設備の長寿命化を図り、ライフサイクルコストの低減を図りました。



(施工前)



(施工後)

企業局 板室発電所配電盤室

④ 環境社会におけるコストの低減

【県土整備部】埋戻し材としてのコンクリート殻の再利用

建物の解体により発生したコンクリート殻を移動式破砕機により場内破碎を行い、埋戻し材料として活用し、コンクリート殻の処分、埋戻し材料の購入に係るコストの縮減を図りました。



(施工中)



(施工中)

栃木会館

【県土整備部】水たまり対策としての既設園路材料の再利用

ウォーキングコースに舗装されていたゴムチップ舗装を処分せずロール状に撤去し、園内における水たまり防止や広場の一部に再利用することで、処分に係るコスト縮減を図りました。



(撤去前)



(再利用状況)

総合スポーツゾーン (東第一駐車場)

【農政部】袋詰根固め中詰材としてのコンクリート殻の再利用

堰改修工事において、構造物取壊しにより発生したコンクリート殻を袋詰根固めの中詰材として再利用することで、処分に係るコストの縮減が図られました。



(再利用状況)



(施工後)

下野市 宮前堰